

宇宙開発戦略本部 宇宙開発戦略専門調査会 第1回会合(議事要旨)

1. 日時 平成20年10月1日(水) 14:30～16:00

2. 場所 官邸4階 大会議室

3. 議事概要

(1) 開会

野田宇宙開発担当大臣挨拶(ビデオ)及び漆間官房副長官挨拶

(2) 座長の選任

宇宙開発戦略専門調査会の座長として、寺島実郎委員を選任。

(3) 宇宙開発戦略専門調査会の運営について

資料2「宇宙開発戦略専門調査会の運営について(案)」について事務局より説明が行われ、異論なく定められた。また同資料2に基づき、寺島座長から澤岡昭委員が座長代理に指名された。

(4) 今後の検討の進め方について

資料3「今後の検討の進め方について(案)」、資料4「宇宙基本計画の作成について(案)」、資料5「宇宙開発利用体制検討ワーキンググループの設置について(案)」及び資料6「宇宙活動に関する法制検討ワーキンググループの設置について(案)」について事務局より説明が行われ、資料3及び4については説明のとおり進めることで了承され、資料5及び6については宇宙開発戦略専門調査会として決定された。

また、両ワーキンググループの構成員及び主査については、調査会座長が定めることとされていることから、構成員については、案のとおりとし、主査については、宇宙開発利用体制検討ワーキンググループには田中明彦東京大学教授を、宇宙活動に関する法制検討ワーキンググループには小菅敏夫電気通信大学名誉教授が指名された。

(5) 我が国の宇宙開発利用を巡る状況について

資料7「我が国の宇宙開発利用を巡る状況について」を事務局から説明が行われた。

(6) 意見交換

その後に行われた意見交換は、以下のとおり。

[本部・調査会の設置]

- 宇宙開発戦略本部や宇宙開発戦略専門調査会が設置されたことを歓迎。我が国全体の宇宙開発利用に関する計画に期待。

[宇宙利用の重要性]

(国民生活に密着したもの)

- 国家の基盤戦略として、宇宙外交、資源、科学、エネルギー、環境にどう取り組んでいくのか検討すべき。
- 気象予報、災害監視、地球環境変動等の観点で国民生活等への貢献が重要。
- 技術開発として、日本らしい、日本が世界に誇れるものを作ることが必要。
- 宇宙開発利用について、国民の理解・期待を得ていくためには、戦略的なストーリーが必要。利用・サービスの中の資源探査、農業・漁業への活用等が重要。
- 利用ニーズ主導型への転換に当たっては、ハードウェアだけでなく、ソフトウェアも大事。海洋等のデータも含めた分野を超えた統合を考えることが必要。
- 利用・サービスについては、産業界も一緒に考えていかなければ、せっかくの技術があまり活用されないようなことになりかねない。宇宙開発利用を進めたことにより、より大きな成果が得られるようにならないといけない。
- 民間の意見を吸い上げることが必要。

(夢・宇宙科学の重要性)

- 宇宙科学は、根源的な問に答えるだけでなく、人々に宇宙を知ってもらおうといった広報的な役割や、チャレンジングな技術開発の苗床としての役割がある。人類・世界への貢献を共同して進める国際協力の場合としても重要。宇宙科学の推進、その役割を宇宙基本計画に明確に位置付けるべき。
- 宇宙に関する夢には、何のために見る夢であるのか、強固な目的意識が必要。子供や若者と共に夢をみて、考えていく姿勢が大切。
- 米国は、NASAの予算の1/3~1/4が宇宙科学に充てられている。米国の宇宙開発の優先順位は、①科学、②安全保障、③経済である。
- 目先の利益誘導より、将来世界のリーダーシップを日本が発揮できるキーテクノロジーをきっちり指向すべき。
- 有人宇宙活動については、宇宙基本計画の策定に向けて、議論することが必要。

[安全保障への貢献]

- 安全保障への貢献については、正面から国家戦略としてどのように考えるか検討することが必要。

[宇宙関係予算]

- 宇宙開発利用という大きな仕事をしているにも拘わらず、予算が少ないので、これを増加することが必要。
- 政府全体の予算について、より大括り化して、国がやるべきところに注力すべき。バラマキにならないように。
- 宇宙開発利用に関する予算を今後大幅に増加することは困難。限られた予算を効率よく使っていくことも大切。

[広報]

- 予算を少しでも増やしていくためには、国民の理解が重要。広報活動の充実が必要。
- この計画で進んでいくというコンセンサスが得られるような宇宙基本計画が必要。

[その他]

- 国家の宇宙開発戦略・大きな方向性を決めた上で、個別論を議論することが大事。
- 宇宙開発利用を進めるに当たっては、我が国の利害のみならず、地球全体・社会の在り方を視野に入れるべき。俯瞰的な視点が大切。
- (資料7、P.10 に関連し)特定の調査会社の結果であるが、日本の宇宙開発利用が世界第7位というのは嘆かわしい。外から見て、日本の宇宙開発利用が強いという認識が持たれるようになるといった目標も大事。

(7) 閉会

資料8「宇宙開発戦略専門調査会検討スケジュール」に基づき、今後の予定について、事務局より説明し、閉会。